

ホーム > 市民レポーター > お雛さまの日 ~市民プラザ・ホールにつるし雛が飾られました~

お雛さまの日 ~市民プラザ・ホールにつるし雛が飾られました~



桃の節句の3月3日、市民プラザホール内は、一気に春が訪れたかのように、明るく華やかな雰囲気につつまれました

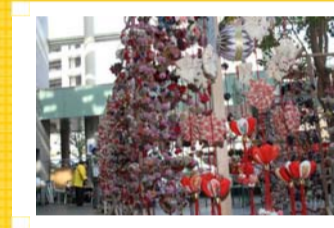
東久留米市商工会女性部の皆さんが、多くの市民の方々と、毎週の講習会で作ってきた約6年分の「つるし雛」の展示がありました

つるし雛の発祥地、九州柳川では、江戸時代人生49歳(女性)と言われていたことから、女子の節句として1本で49個(7連X7個)の飾りを吊すのだそうです

東久留米では、この柳川方式を採用しています

当初は、商工会所属のお店に飾ってにぎわそうと、関係者が作り始めたのですが、市民の方々の参加が徐々に増えて、今では80名近くになり、つながりの輪の広がりの結果なのです

市民レポーター 地産地消



「桃飾り」とも呼ばれる飾りには、それぞれに、謂われや言い伝えがあり、子の成長を願う親の深い愛情がうかがえます

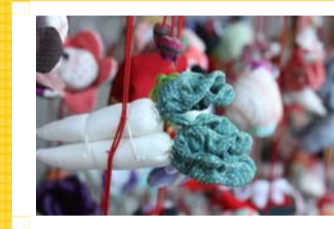
桃・うさぎ・さる・巾着・俵ねずみなどなど、それぞれに意味があります



東久留米ならではのものも... 市の鳥「尾長」です

「大根」ははずせれません

「ブドウ」も栽培されています



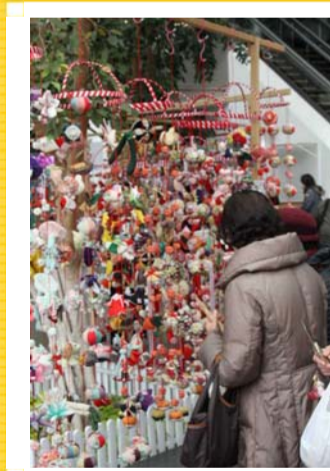
「ホトケドジョウ」もいます

今年の国体のシンボル「ユリカモメ」、東久留米では10月に「クライミング」競技が行われます

「ダイコン」はやはり目立ちます



沢山の人が、楽しんでいます



一つ一つに味わいがあり、あきません



子に対する思いは、皆んな同じ



雛飾りの向こうには、姉妹都市榛名町(現高崎市)からいただいた「白梅」が満開となっています



商工会女性部の皆さんです、馬場市長と一緒に

(写真は、関係者の了解を得て掲載しています)